

授業科目名	舞台美術論	担当教員	杉山 至
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3年 第1クォーター		
講義内容	<p>この授業の目的は国内外の舞台芸術について舞台美術・セノグラフィーの観点からの知見と理解と構想力を得ることである。</p> <p>授業はスライドレクチャーを軸に一部アクティブラーニングを取り入れて行う。</p> <p>世界的な舞台芸術の潮流について、特にヨーロッパと日本の舞台美術の歴史を軸に概観し、舞台芸術の表象について学ぶ。また、舞台美術の発想と舞台空間の基本的なプランニングについて、環境、空間、建築、照明、音響等の関わりを含め学ぶ。</p> <p>アクティブラーニングを取り入れた授業内実習の前半は、『共感覚』をキーワードに音や言葉と空間の関わりを軸にホワイトモデル（白模型）の製作を行う。後半は『原風景』をキーワードに古典戯曲の上演を前提とした舞台美術のプランニングと構想までを行う。</p>		
到達目標	<p>1. 舞台美術の変遷を上演芸術の歴史との関係から説明することができる。</p> <p>2. 舞台芸術の空間のイメージを模型やスライド、図面、イラストなどを用いて、具体的に人に伝えることができる。</p>		
授業計画	<p>1/授業概要説明ガイダンス、 SL1『舞台美術論 舞台美術（セノグラフィー）とは？』 AL1-1『ホワイトモデルの構想と製作 1』（音と空間）</p> <p>2/SL2『舞台美術の世界 1（古代ギリシャ～古代ローマ）』 AL1-2『ホワイトモデルの構想と製作 2』（音と空間）</p> <p>3/SL3『舞台美術の世界 2（中世）』 AL1-3『ホワイトモデルの構想と製作 3』（音と空間）</p> <p>4/SL4『舞台美術の世界 3（シェークスピア/エリザベス朝の演劇空間）』 AL1のプレゼンと講評</p> <p>5/SL5『舞台美術の世界 4（ルネサンス～遠近法の世界）』 AL1のプレゼンと講評 AL2-0『原風景からの発想』（課題説明）</p>		

	<p>6/SL6 『舞台美術の世界 5 (バロック)』 AL2-1 『原風景からの発想 1』 (スケッチ 1)</p> <p>7/SL6 『舞台美術の世界 6-1 (日本の芸能空間～道の芸能)』 AL2-2 『原風景からの発想 2』 (言語化・模型作成)</p> <p>8/SL7 『舞台美術の世界 6-2 (日本の芸能空間～道の芸能・間)』 AL2 のプレゼンと講評 AL3-0 『古典戯曲と原風景から舞台美術 (セノグラフィー) を構想する』 課題説明</p> <p>9/SL8 『舞台美術の世界 7-1, 2 (近代～現代)』 AL3-1 『古典戯曲と原風景から舞台美術 (セノグラフィー) を構想する』 (戯曲選定・イメージスケッチ)</p> <p>10/AL3-2 『古典戯曲と原風景から舞台美術 (セノグラフィー) を構想する』 (図面・模型作成)</p> <p>11/AL3 のプレゼンと講評</p> <p>12/AL3 のプレゼンと講評</p> <p>*SL はスライドレクチャーのこと *AL はアクティブラーニングのこと *必要に応じて CAD 講習を随時行う予定</p>
事前・事後 学習	授業内で出たアクティブラーニングの課題についての宿題あり
テキスト	各授業内でスライドレクチャーに沿った資料テキストを配布
参考文献	<p>『Making the Scene: A History of Stage Design and Technology in Europe and the United States』、2010, Oscar G. Brockett, Margaret Mitchell</p> <p>『劇場の構図』清水 裕之著、鹿島出版会、1985</p> <p>・『劇場/建築・文化史』S・ティドワース著、早稲田大学出版会、1986</p>
成績評価 の基 準	授業への取り組み (50%)、プレゼンテーション (30%)、最終発表 (20%)
履修上の注意 履修要件	

実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	模型製作や図面作成のための文房具等を揃えること（授業内で告知）。 履修オーバーの場合は抽選となる。